

<認知症対応型共同生活介護用>  
<小規模多機能型居宅介護用>

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	8
1. 理念の共有		1
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		2
5. 人材の育成と支援		0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		5
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		6
1. その人らしい暮らしの支援		4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		20

事業所番号	1471100139
法人名	社会福祉法人 百 鷗
事業所名	グループホーム 葉山の里
訪問調査日	平成 23 年 9 月 22 日
評価確定日	平成 23 年 10 月 31 日
評価機関名	(株)R-CORPORATION

**○項目番号について**  
外部評価は20項目です。  
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

**○記入方法**  
[取り組みの事実]  
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
[次ステップに向けて期待したい内容]  
次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
家 族 = 家族に限定しています。  
運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471100139	事業の開始年月日	平成15年12月1日	
		指定年月日	平成15年12月1日	
法人名	社会福祉法人 百 鷗			
事業所名	グループホーム 葉山の里			
所在地	( 240-0113 ) 神奈川県三浦郡葉山町長柄253-1			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護  <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2 ユニット	
自己評価作成日	平成23年8月31日	評価結果 市町村受理日	平成23年11月10日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域との交流を大切にしながら、利用者が持っている可能性を引き出し、その人らしい生活を継続して頂き、毎日が安心して穏やかに過ごし、新鮮で、美味しい食事を楽しみながら、自分の言いたいことが自由に言える居場所であり、それぞれの我が家です。又 手先の器用な方々で、縫い物や料理の下ごしらえ、月1回のお菓子作りには、好みのエプロンを付けて、若い頃の力を発揮したり、ちりめん手芸にチャレンジしています。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成23年9月22日(木)	評価機関 評価決定日	平成23年10月31日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

①ホームの経営母体は社会福祉法人百鷗で、JR逗子駅からバスで10分位の住宅地にある。社会福祉法人百鷗は地元葉山と逗子に特養葉山清寿苑、特養逗子清寿苑を中心にショート、デイ、居宅介護、そして2つのグループホームを展開し、地域福祉のネットワークを形成し、「地域に開かれた事業体として社会に貢献する」ことを理念に地域福祉の中核となっており、グループホーム葉山の里はその一翼を担っている。法人のコンセプトは「温もり、優しさ、安心、安全」であり、ホームの方針も「同じ土地で年老いて、安心して、当たり前、ゆったりと過ごせ、外に出れば知り合いに逢える」そんなホームを目指している。平成15年の設立であり、ADLの低下した利用者も多いことはやむを得ないが、ADLの低下を極力先送りに出来るよう生活リハビリを取り入れ、家事を一緒にやることで役割意識とリハビリが出来るよう工夫し、個人別に得意なことが異なるので個人マニュアルを作成し、階段の上下運動の目標などを絡めながら、ADLを落とさない生活を日常化するよう努めている。

②所長が着任して2年半、所長として取り組んだ3点(1)利用者さんのADL維持の為に、リビングで過ごすのが楽しくなるよう工夫をし、手仕事、レク、毎日欠かさぬ散歩などで活性化と筋力が低下させない事。(2)職員の研修では、自らが学びたい意欲を起こさせる事と、重度化に伴う介護技術の向上への取り組み。(3)情報の共有化については、情報ノートの活用と、見たら必ずサインする事の徹底から、共通認識が出来る体制を推進を目指すことが、着実な成果を上げ、活気溢れるホームとなった。1点目は個人マニュアルと生活リハで、2点目は重度化した利用者のケアと研修で、3点目は感想(意向)ノートの定着と活用で着実な成果が出ている。特に利用者自身が書いている作文は目を見張る出来栄であり、これが本当に認知症を患う方の作文かと思われるもので、内容も字も素晴らしいものであった。作文のみではなく利用者は自由に自己主張されるようで、生活に張りを持って暮らしていることが素晴らしい。

③毎月お送りするお便り内容を向上させ、お便りの中に介護記録を折込み、ご家族との情報の共有に努めている。このホームは管理者・職員に温かいハートがあり、素晴らしいホームが出来上がっている。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム 葉山の里
ユニット名	森戸

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人としての経営理念を基に職員で共有して実践に取り組んでいる。	社会福祉法人百鷗として理念は、年度事業計画、事業所の事業計画に必ず掲載され、入社時には必ず教育し、職員が初心を忘れないよう最低でも1年に1度は理念について再確認がされている。特に法人としては接遇に力を入れ、年度研修計画に組み込み、職員の資質の向上と均一化を図っている。地域にも法人の理念を理解して頂くよう努めていきたい。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流を大切にしながら、日常的にふれあいサロンの出席や防災訓練にも参加頂いている。今後は定期的に防災訓練に出席して頂いている。散歩で行き交う近隣の方が声をかけて下さる。	この地域は町内会活動が盛んな地域であり、町内会に加入し、月1回定例会、ふれあいサロンに出席して地域の方々との交流を図りつつ、日常的な支援を頂いている。ご近所とのつきあいを大切にしており、ご近所から使い捨てタオルを届けて頂いたり、缶詰や野菜等も差し入れも頂いている。手工芸連盟が中心に行う葉山町の文化展には百鷗グループとして、このホームからも作品を出展出来るまでになってきた。散歩で行き交う近隣の方が声をかけて下さっている。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	タオルや未使用下着、シーツの寄付を頂いたり最近は玄関前において下さっている。又衣類の入れ替え時は電話での問い合わせがあり、相談させて頂いています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年3回実施（活動状況、職員人事、面会、稼働率、事故発生状況）の報告しています。今年度は、22.11 23.3 23.7 開催	年3回実施（活動状況、職員人事、待機者説明、面会状況、事故発生状況、稼働率）の報告を行ない、会議終了後次回の検討課題や意見を伺いサービス向上に生かしている。メンバーは民生委員（町内会代表）を中心に、町役場の職員、ご家族、利用者それにホーム職員で行っている。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	年1回講習会を開催して下さったり、相談したり、教えて頂いたり協力関係を築いている。	市町村担当者の意見を聞いたり情報交換を行っている。社会福祉法人百鷗の展開する特養葉山清寿苑、グループホーム2つは葉山町の高齢者施設の中心であり、葉山町も頼りにしているので車の両輪のように良い関係が維持されている。空室がある時などにもご協力頂いている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束しないケアに取り組んでいますが、退院後2日間のみ10分～30分やむなく行いました。	拘束による弊害については充分徹底され、拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の鍵については安全のため手薄な時は施錠している場合もあるが、事務所に人がいる時は開けておくようにし、閉塞感の無いケアの実現に努めている。左記（自己評価）、身体拘束のケースは、ご家族の同意を頂き、レアケースであるが、必要な事例として運営推進会議にも報告し、ガラス張りの介護実例として明示したものである。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修やミーティング、会議の時に虐待防止について学び防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等に参加して学んでいる。一人の利用者様が成年後見制度を活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者家族に十分な説明を行い、理解・納得して頂いている。又疑問点を尋ね説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来訪時、日頃の暮らしぶりを伝えたり、介護内容記録を1ヶ月に1回送付して近況報告や身体状況をお知らせしている。	利用者の意見に関しては、出来る事はやっってもらおう方針であり、例えば人形作り、織物の張り合わせなど、認知症だから出来ない決め付けず、興味を示したら、下ごしらえしたものをやってもらい、出来たことで意欲を持ち、昔の記憶も蘇り、素晴らしい作品となる等、潜在能力の呼び起こしによる喜びを生活に生かしては事素晴らしい。家族が来訪時には記録を見て頂き、日頃の暮らしぶりを伝えたり、介護内容記録を1ヶ月に1回送付して近況報告や身体状況をお知らせしご意見を頂いている。個人別マニュアルを作成し個人ケアを徹底している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回、スタッフ会議等で職員の意見を聞いている。又毎日のミーティング等で職員からの意見や提案を出して頂くよう促している。	毎月1回、スタッフ会議等で職員の意見を聞いている。また、毎日のミーティング等で職員からの意見や提案を出して頂くよう促している。会議では出席したら1回は必ず発言するなど、積極的な参加を促がしている。職員については、内部研修を行い、意見も聞き、法人へも報告を上げている。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現理事長は職場環境や職員の現状を良く聴き整備に努めています。又職員が向上心を持つ事に関し奨励しています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会の確保や働きながらトレーニングして行く事を勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	逗子、葉山の6事業所間で2ヶ月に1回定期的に勉強会を開催9月～各事業所間での職員交流を開催予定		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っていることや不安に感じてことに耳を傾けながら、安全 安心が確保できるような関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族が困っている事や不安に感じていることなどが相談出来るよう、話しやすい雰囲気作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族と良く話し合い、必要としている支援を見極め、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にする関係をより良い方向にするように心がけ、共に共有している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人と家族の出会いを大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今迄の関係が続けられるよう本人の話を良く聴き馴染みの人が途切れないように手紙や電話のやり取り、面会時間も自由にして頂いている。	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や、これまでの本人との関係が続けられるように、話を良く聴き支援に努めている。利用者に対しては、馴染みの人との関係が途切れないように手紙や電話のやり取りを支援し、面会時間も自由にして頂いている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同志が安全で楽しく暮らして頂けるよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて関係を断ち切らないよう取組みを継続し、相談、支援に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者の意見や希望を聞いたり、アンケートを取り、極力本人の希望に沿うよう支援している。	利用者の希望や意見を聴き、アンケートを取り、本人の意向の把握に努めている。言葉に表せない人の動作、表情、意思を汲み取り極力、その人の気持ちになって考えてあげるよう促がしている。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりから話を聞いたり、家族が来苑時に話を伺ったり、記録に目を通したりして、これまでの暮らしが出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中で、一人ひとりの有する能力等の現状の把握に努め、その方の持っている能力を引き出すよう把握に努めている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族や本人と話し合い、希望を聞いたり会議等で意見を聞きながら、現状に即した介護計画を作成しています。	介護計画は縦型に、アセスメント概要は左に基本的なチェック表を、右に18項目の項目を置き、常に項目別にモニタリングしやすい書式を記入し、会議等でそれぞれの意見を聞きながら、話し合いご本人や家族の意見を反映し、現状に即した介護計画を作成するよう努力している。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で情報を共有しながら、記録物を補足したり見やすいよう改正したり実践に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況に対応しながらサービス提供するように取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全で豊かな暮らしを提供できるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との良い関係作りが出来ており、情報交換を行い適切な医療を受けられるよう支援している。	医療連携体制は取っておらず、医療的な必要性があれば特養へのルートも考えつつ法人のノウハウを有効活用する体制としている。かかりつけ医（往診医）は6医院あり連携を取り、良い関係づくりが出来ている。情報交換を怠らず、適切な医療を受けられるよう支援している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個々の利用者が適切な受診や往診が受けられるよう支援している。週1回看護職員が勤務しているので、相談や助言を受け支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換や相談に、努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から、本人、家族と話し合い当苑で出来る事を十分に説明しチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合の意向を、入所時、ご家族に伺っている。必要に応じて法人としての方針と事業所で出来る事を説明し、チーム体制で支援に取り組んでいる。月1回、法人全体で入退所検討委員会を開催し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	すべての職員ではないので、今後は定期的に応急処置や初期対応の訓練を行い実践力を身につけていきたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の協力体制が絶対に必要な為地域住民参加の防災訓練を実施した。今年度の課題として非常災害時の避難誘導を全職員が出来るような体制作りをしていきたい。	地域の協力体制が絶対に必要な為、地域住民参加の防災訓練を実施した。今年度の課題として非常災害時の避難誘導を全職員が出来るような体制作りをしていきたい。町内会とは防災に関する覚え書を締結している。防災に関する事務事業評価ノート（法人用）を法人に提出している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重し、言葉遣いや接遇に対して全職員で研修を受講し対応している職員一人ひとりの法人の顔である事を理解し言葉遣いや気配りに注意を払い誇りやプライバシーを損なわないよう、個性に合わせた対応を心がけている。	利用者の人格を尊重し、言葉遣いや接遇に対して、全職員で研修を受け対応に努めている。職員一人ひとりが法人の顔である事を理解し、言葉かけや気配りに注意をはらい、本人の誇りやプライバシーを損ねないよう対応するように努めている。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望が叶えられるように努力し、レクや手仕事などいくつかの選択肢を提示し、自己選択して頂いたりどんな事を日常の中で希望されているのか対話する事で、表現できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその日の体調や様子で考慮しながら一日をご自分のペースで過ごして頂くよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みを検討し、季節感あるおしゃれが出来るよう支援している。入浴時に整容を行い、ヘアカットは2ヶ月に1度行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	お食事アンケートを実施したり、食事委員会で話し合っている。利用者と職員と一緒にやって頂き交流を更に深めたりしています。皆様何をされても器用で材料を見ると自然に手が動くようです。月1回外注食を実施好きなものを注文して頂いている。	メニューは独自で作っていて、お食事アンケートを実施したり、食事委員会で話し合ったりしている。利用者と職員と一緒にやって頂き交流を更に深めたりしている。炊事を通し、職員と交流を深められるよう参加して頂いている。ご利用者の方々は、器用で、材料を見ると自然に手が動くなど主婦の経験が発揮されるようである。月1回外注食を実施し、ご利用者の好きなものを注文して頂いたりしている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態を把握して栄養バランスや水分量は常にチェックしている。食事や水分摂取量を記録し、1日の水分量が確保出来るよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に応じた口腔ケアを行ったり嚥下体操を継続している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、チェック表等で支援を行っている。排泄介助や声かけ誘導を行い、自立支援を促している。又排泄介助の際にはプライバシーに注意して支援している。	職員は、一人ひとりの排泄状況を把握し、皮膚状態の観察や、プライバシーに配慮しながら排泄介助、声かけを行い、自立に向けた支援をしている。便座に座れば今までの生活を思い出し、緊張も緩和される。個々の排泄パターンはチェック表等で支援を行っている。尿路感染が無いよう清潔には気を使っている。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取、食事、運動、環境面での予防と排便チェック表で把握し個々の対応をしたり、腹部マッサージや水分、運動、下剤等で対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	リラックスして入浴できるような環境づくりと、楽しくのんびり入浴できるようにバラ風呂や気分転換して頂いている。又入りたくない方には時間をずらしたり工夫を凝らしている。	ご利用者が楽しく寛いで入浴して頂ける様、一人ひとりに応じた支援を行っている。また、臨機応変に時間をずらしたり、翌日に入って頂く等、バラ風呂やハーブ湯等で、気分転換を図れる工夫に努めている。お花屋さんと懇意で、毎週木曜日にお花を頂いており、バラもそのとき頂くものである。基本的に、リラックスして入浴して頂ける環境作りとゆったりとした気分で入浴して頂ける支援をしている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣により、休む時間も異なり自分の好きな時に休んで頂くよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬ノートや連絡簿等で数量を書き職員全員で把握できるように努めている。又必ず二人対応で事前に服薬を確認している。服薬後の様子観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の意見や希望を聞きながら利用者さんが毎日楽しい日々を送れるよう支援している。定期的にボランティアの来苑により苑外の方とのふれあいを楽しんで頂いている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	町内会のふれあいサロンに出かけたり、馴染みの理髪店に行かれたり、又希望を聞きながら戸外に出かけている。散歩に行きながらコンビニに行かれ好きなお菓子等購入されている。	外出支援について、本人の希望に沿うよう行動計画を立て、その日の希望を聞き、職員同行にて理髪店やクリーニング店等に出かけている。また、町内会主催のふれあいサロン等にも出かけている。散歩については、毎日同じコースではなく、利用者の希望に合わせてコースを変えたりしている。散歩途中、花屋で季節の花を楽しんだり、コンビニでお菓子を選ぶ等、戸外を楽しめる支援をしている。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の力量に応じて、所持している方もいる。又買い物のときに持って支払う方もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分で出来る方は、自ら電話したり年賀状や書中見舞いを名度オリジナルなものを作りだすよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感や生活感を取り入れる様工夫している。西日の当たるところに緑のカーテンや朝顔を植え1日の移り変わりを感じて頂けるよう又季節の花々や玄関内や階段を利用して手作り和小物を飾っている。	共有空間では、光の調整や自然の感性をふんだんに取り入れ一日の移り変わりを体感できるように配慮している。また、季節感や生活感を取り入れ、利用者が居心地良く過ごせる工夫に努めている。玄関入り口には季節の花々、玄関内や階段等には、手作りの和小物やタペストリーや利用者の手作り品が飾られ、来る者にも居心地の良い共用空間を感じさせ、利用者が生活を楽める演出が施されている。特徴として、利用者の手作り品を歳時記で楽しめる等の工夫がある。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆さんの自由に思い思い過ごし方が出来るよう工夫している。共用の色々な所に坐る場所があるので一人になれたり木のあった者同志でテレビを見ている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具を居室に置のかれ居心地良く過ごしている又自分の好み物を飾ったりして過ごされている。	居室は、ご本人が長年使用された大切な物を居室に置き、自分の好みものを飾ったりして、心地よく過ごせるよう配慮している。日当たり具合により居室の室温に注意し、遮光調整にも工夫をし、居心地良く過ごせるよう配慮している。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの力を生かし、安全で安心できる環境づくりに努めている。常に利用者に対話する事で本人の希望や好み能力を理解し、快適な生活が送れるよう工夫している。		

事業所名	グループホーム 葉山の里
ユニット名	一色

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	外部評価	
			自己評価 実施状況	外部評価 実施状況 次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人としての経営理念を基に職員で共有して実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流を大切にしながら、日常的にふれあいサロンの出席や防災訓練にも参加頂いている。今後は定期的に防災訓練に出席して頂いている。散歩で行き交う近隣の方が声をかけて下さる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	タオルや未使用下着、シーツの寄付を頂いたり最近は玄関前において下さっている。又衣類の入れ替え時は電話での問い合わせがあり、相談させて頂いています。	
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年3回実施（活動状況、職員人事、面会、稼働率、事故発生状況）の報告しています。今年度は、22.11 23.3 23.7 開催	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	年1回講習会を開催して下さったり、相談したり、教えて頂いたり協力関係を築いている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束しないケアに取り組んでいますが、退院後2日間のみ10分～30分やむなく行いました。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修やミーティング、会議の時に虐待防止について学び防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等に参加して学んでいる。一人の利用者様が成年後見制度を活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者家族に十分な説明を行い、理解・納得して頂いている。又疑問点を尋ね説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来訪時、日頃の暮らしぶりを伝えたり、介護内容記録を1ヶ月に1回送付して近況報告や身体状況をお知らせしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回、スタッフ会議等で職員の意見を聞いている。又毎日のミーティング等で職員からの意見や提案を出して頂くよう促している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現理事長は職場環境や職員の現状を良く聴き整備に努めています。又職員が向上心を持つ事に関し奨励しています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会の確保や働きながらトレーニングして行く事を勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	逗子、葉山の6事業所間で2ヶ月に1回定期的に勉強会を開催9月～各事業所間での職員交流を開催予定		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っていることや不安に感じてことに耳を傾けながら、安全 安心が確保できるような関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族が困っている事や不安に感じていることなどが相談出来るよう、話しやすい雰囲気作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族と良く話し合い、必要としている支援を見極め、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にする関係をより良い方向にするように心がけ、共に共有している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人と家族の出会いを大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今迄の関係が続けられるよう本人の話を良く聴き馴染みの人が途切れないように手紙や電話のやり取り、面会時間も自由にして頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同志が安全で楽しく暮らして頂けるよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて関係を断ち切らないよう取り組みを継続し、相談、支援に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者の意見や希望を聞いたり、アンケートを取り、極力本人の希望に沿うよう支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりから話を聞いたり、家族が来苑時に話を伺ったり、記録に目を通したりして、これまでの暮らしが出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中で、一人ひとりの有する能力等の現状の把握に努め、その方の持っている能力を引き出すよう把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族や本人と話し合い、希望を聞いたり会議等で意見を聞きながら、現状に即した介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で情報を共有しながら、記録物を補足したり見やすいよう改正したり実践に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々々の状況に対応しながらサービス提供すように取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全で豊かな暮らしを提供できるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との良い関係作りが出来ており、情報交換を行い適切な医療が受けられるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個々の利用者が適切な受診や往診が受けられるよう支援している。週1回看護職員が勤務しているので、相談や助言を受け支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換や相談に、努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から、本人、家族と話し合い当苑で出来る事を十分に説明しチームで支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	すべての職員ではないので、今後は定期的に応急処置や初期対応の訓練を行い実践力を身につけていきたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の協力体制が絶対に必要な為地域住民参加の防災訓練を実施した。今年度の課題として非常災害時の避難誘導を全職員が出来るような体制作りをしていきたい。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重し、言葉遣いや接遇に対して全職員で研修を受講し対応している職員一人ひとりの法人の顔である事を理解し言葉遣いや気配りに注意を払い誇りやプライバシーを損なわないよう、個性に合わせた対応を心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望が叶えられるように努力し、レクや手仕事などいくつかの選択肢を提示し、自己選択して頂いたりどんな事を日常の中で希望されているのか対話する事で、表現できるように働きかけている。。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその日の体調や様子で考慮しながら一日をご自分のペースで過ごして頂くよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みを検討し、季節感あるおしゃれが出来るよう支援している。入浴時に整容を行い、ヘアカットは2ヶ月に1度行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お食事アンケートを実施したり、食事委員会で話し合っている。利用者と職員と一緒にやって頂き交流を更に深めたりしています。皆様何をされても器用で材料を見ると自然に手が動くようです。月1回外注食を実施好きなものを注文して頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態を把握して栄養バランスや水分量は常にチェックしている。食事や水分摂取量を記録し、1日の水分量が確保出来るよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に応じた口腔ケアを行ったり嚥下体操を継続している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、チェック表等で支援を行っている。排泄介助や声かけ誘導を行い、自立支援を促している。又排泄介助の際にはプライバシーに注意して支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取、食事、運動、環境面での予防と排便チェック表で把握し個々の対応をしたり、腹部マッサージや水分、運動、下剤等で対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	リラックスして入浴できるような環境づくりと、楽しくのんびり入浴できるようにバラ風呂や気分転換して頂いている。又入りたくない方には時間をずらしたり工夫を凝らしている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣により、休む時間も異なり自分の好きな時に休んで頂くよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬ノートや連絡簿等で数量を書き職員全員で把握できるように努めている。又必ず二人対応で事前に服薬を確認している。服薬後の様子観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の意見や希望を聞きながら利用者さんが毎日楽しい日々を送れるよう支援している。定期的にボランティアの来苑により苑外の方とのふれあいを楽しんでもらっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	町内会のふれあいサロンに出かけたり、馴染みの理髪店に行かれたり、又希望を聞きながら戸外に出かけている。散歩に行きながらコンビニに行かれ好きなお菓子等購入されている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の力量に応じて、所持している方もいる。又買い物のときに持って支払う方もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分で出来る方は、自ら電話したり年賀状や書中見舞いを名度オリジナルなものを作りだすよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感や生活感を取り入れる様工夫している。西日の当たるところに緑のカーテンや朝顔を植え1日の移り変わりを感じて頂けるよう又季節の花々や玄関内や階段を利用して手作り和小物を飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆さんの自由に思い思い過ごし方が出来るよう工夫している。共用の色々な所に坐る場所があるので一人になれたり木のあった者同志でテレビを見ている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具を居室に置のかれ居心地良く過ごしている又自分の好み物を飾ったりして過ごされている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの力を生かし、安全で安心できる環境づくりに努めている。常に利用者に対話する事で本人の希望や好み能力を理解し、快適な生活が送れるよう工夫している。		

## 目 標 達 成 計 画

事業所

グループホーム 葉山の里

作成日

平成23年9月22日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	緊急時災害避難対策	緊急災害時に慌てずに利用者全員を無事に避難誘導する。現状は年2回防災訓練（9月、3月）実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後は2ヶ月に1回避難訓練。</li> <li>・ 日中・夜間想定で訓練実施。</li> <li>・ 平常、苑の回りの保全に努める。</li> <li>・ 非常持出品の準備や停電、断水に備えての懐中電灯、携帯ラジオや予備電池、飲料水、生活用水等の確保に努める。</li> <li>・ 実施時は地域住民、大家さんの参加呼びかけに努める。</li> </ul>	23年度中
2	9	外出支援： 思いや意向のアンケートを行なった結果、皆で外出したり、ショッピングを楽しみたいとの希望があった。	1階、2階に分けて6～7名の方と一緒にショッピングや外出に出かける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 11月みかん狩りを兼ねて和食店で食事、ドライブを楽しみみかん狩り。</li> <li>・ 3月久里浜イオンに外出、食事やショッピングを楽しむ。</li> </ul>	11月、3月 実施
3	19	居心地良い共用空間作り： 若い頃、和裁、洋裁をやっていたので、作れるかしらと云う可能性の言葉が出た為。	クリスマスに飾るタペストリーの作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2名の利用者さんの希望を聞きながらプリント布と綿・無地布を合わせ刺繍糸で縫い立体感を出して行く。</li> </ul>	4ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。